

編集後記

社会はポストコロナ時代へと変化していますが、その影響は医療・介護だけにとどまらず、産業、経済にも大きな打撃をもたらしました。

これまで、看護は人へのケアを通して心身の健康を向上させ、その人にとって日々の営みが意義あるもの出来るように自らの専門的知識・技術を高めてきました。このポストコロナの状況において社会的基盤となる人と人、人と環境の相互性について、そのあり方が問い直されているとともに、このような時代だからこそ看護の真価が問われ、さらなる発展が期待されているように思います。微力ながら東邦看護学会誌としても、看護の発展に貢献できればと考えます。

さて、東邦看護学会誌は投稿しやすい学会誌を目標に、今年度から大きく2点の変更を行いました。1点目は投稿規程の論文の種類です。【総説】【原著】【報告】【資料】の4種類に整えました。2点目はオンライン投稿・査読システムの導入です。オンライン化により投稿・査読がより安全に、かつ簡便に行えるようになりました。

是非、多くの会員の皆様からの投稿をお待ちしております。

また、本誌第20巻2号には、総説1編、報告2編の計3本の論文を掲載しております。今年度も、感染拡大で業務が多忙な中、査読者の方々には、建設的で丁寧なご助言を賜り感謝申し上げます。著者の皆様は、助言を真摯に受け止め、論文の修正と推敲を重ねていただき完成度の高い論文になりました。会員各位には、今後も引き続き、本学会誌への投稿と査読へのご協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

藤原 和美

編集委員会

委員長	藤原 和美	(東邦大学看護学部)
委員	藤野 秀美	(東邦大学看護学部)
	成澤 明	(東邦大学看護学部)
	中田かおり	(東邦大学看護学部)
	岡本 恵子	(東邦大学看護学部)
	高宮庸司郎	(東邦大学医療センター大森病院)
	山田 亨	(東邦大学医療センター大森病院)
	工藤智佳子	(東邦大学医療センター大橋病院)
	大城みゆき	(東邦大学医療センター大橋病院)
	原田 洋平	(東邦大学医療センター佐倉病院)
	早川 未来	(東邦大学医療センター佐倉病院)
